

令和3年度 横浜美術館 指定管理者業務評価表(外部評価)

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営	<p>【評価できる点】</p> <p>コロナ下と大規模改修というふたつの通常よりも困難な状況にあつて、海外発信を積極的に行なっている。特にヨコハマトリエンナーレについてはアーティストック・ディレクターの選定作業を多様な国籍や性別を勘案しながらの選定は評価すべきである。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・大規模改修による休館中も活動中であることを、魅力的な工夫を以て、ウェブ等で発信しており、恒常的に美術館への興味を持続、喚起する努力がなされています。</p> <p>・「YT2023」については、アーティストックディレクター選定など着実に準備が進められ、又国際都市横浜の魅力牽引の証として、YT2020についての評価を含め「国際グループ」を中心とする国際的ネットワークの連携及び、持続的な関係構築等、海外発信に確たる経営成果をあげています。</p> <p>・外部連携についても、コレクションの新聞連載や「横浜みなとみらい21」によるオンラインツアー協力の機を得て美術館の多面的魅力を発信する等、多様な媒体と連携大いに健闘しています。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>休館および新型コロナ禍という困難な状況の中で、政策目標に向けた取組を推進できたことを高く評価します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>国際会議への参加ならびにコロナ禍における国際芸術祭開催報告、横浜トリエンナーレに向けての準備、休館中の広報活動、改修後の基本方針の検討などを進めている点は評価したい。政策目標(経営)「横浜美術館は国際都市横浜の魅力牽引します。」の実現に向けて、休館中かつコロナ禍でありながら、着実に成果を上げたと言える。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大規模改修・休館という状況下で、Webでの積極的な情報発信などを続けている点は評価できる。特に海外への発信については、新型コロナの中でYT2020を実施したことが、横浜美術館のプレゼンス向上につながっていると思われる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>WEBでの交流を積極的に行なっていることについては評価できる。状況を見ながらならざるを得ないが、リアルでの人的交流も早々に実現させてほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>休館中ながら、次のステージへの活発な取り組みも行われており、国際都市横浜のシンボルとして、今後も横浜美術館ならではの象徴的で、親しみのあるアプローチをとりながら、質高く国内外に発信、連携を続けていただきたいと期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>大規模改修は大きなプロジェクトであり、他館の参考になるようなものとしていただきたいと思えます。また、財団内の他の施設や他都市美術館との連携を、さらに推進していただきたいと思えます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>休館中も、改修後も、外部との連携(市民協働)は横浜美術館にとっては経営の重要ポイント。基本方針を内部で検討するだけでなく、休館中だからこそ、外部の多様なセクターとの対話の場を設け、ニーズやシーズを探り、今後の活動の可能性をともに考える時期とすべきではなからうか。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>Webでの積極的な情報発信など、改修・休館中の取り組みは評価できるものの、長期の休館によって作品や美術館と市民や観客との直接的な接触の機会が著しく減少することは否めない。これまでの取り組みを継続しつつ、さらなる情報発信、リニューアル・オープンへの期待喚起に務めていただきたい。</p>
2 事業 ①	<p>【評価できる点】</p> <p>改修後の展覧会について検討を進めている。特にアートギャラリー2、3の現実的な展示の議論を重ね、それによる展示内容の変化や、動線計画、人員配置など、現実的な検討をしている。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「New Artist Picks:Wall Project」の一回目が仮囲いで展示され、若手アーティストと鑑賞者をつなぐ小企画展が実現、大規模改修中ながらも、来館者の裾野を広げる努力をしています。新たな美術の価値創造にむけてプロジェクトを組織し、多様な展覧会を視野に、新設のアートギャラリーをはじめ、改修後の展示計画の構想の検討が細やか着実に進められており、大いに期待できます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>改修後の展示計画について、市場調査を行いつつ、検討作業が進められていると思えます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>仮囲いを活用して、NAP(New Artist Picks)を開催できたことは評価したい。休館中であっても、美術館の前広場を訪れた家族連れ等に対して、若手作家を紹介する美術館であることをアピールできていると思う。</p> <p>政策目標(事業①)「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を上げます。」は、休館中であるため多様な展覧会の実施はできなかったが、美術鑑賞者の裾野を広げることができたと思われる。その点を評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>リニューアルオープン後を見据えた各種検討、借り囲いでの展示など、政策目標を見据え、大規模改修期間中に実施すべき事項を着実に実施している。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>メディアとの共催による大規模展については、メディアの経営状態の変化により、収益を上げることに偏った内容になっている。収益が少なくとも、公立美術館に相応しい内容の展覧会開催を期待する。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>可能であれば、若手アーティスト小企画展の、近隣の民間や公的施設の巡回も、地域に開く、裾野拡大となりうると思えます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>新しいジャンルや若手作家の育成支援も、本館には期待されています。そうした支援活動を反映する、来館者数とは別の指標があればと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修計画や改修後の基本方針の検討に重きを置いているのは致し方ないと思えるが、横浜美術館の活動を市民(特に未利用者)に知ってもらういい機会でもあるので、区の施設などを活用し、小規模でも巡回展を行ってほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>リニューアルオープン後の話題性の高い展覧会(リニューアル記念展?)に加え、横浜美術館の第2期(開館から現在までを第1期とする)の展覧会を軸とした事業展開の方向を、長期的な展望に基づいて、十分に検討・準備いただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
2 事業 ②	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションを使った展覧会を国内の他館と協力して巡回する事業やアーカイブの充実が横浜美術館のコレクションの魅力のアピールする絶好の機会であるとともに、美術館における収蔵作品の重要性を認識する機会でもあり、非常に評価できる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トライアローグ展」が令和3年度、愛知、富山各県美術館を巡回し、令和4年度には、郡山市立美術館で横浜美術館日本画コレクション企画展開催など、コレクション活用の拡大に確たる成果をあげつつあります。 ・更にコレクション作品画像の撮影、公開などが着実に進捗しつつあり、文化庁文化観光拠点計画にのっとり、ウェブサイト閲覧、分かり易い作品解説やデータ化に取り組んでおり、コレクションが幅広い鑑賞者に届くと同時に、デジタルによる未来への継承文化財の蓄積として高く評価できます。 ・直近6年間の紀要論文のweb公開、改修後の美術情報センターの活動方針や、組織についてなどリニューアルオープンにむけ着実、丁寧な取り組みが行われています。 ・休館中をプラスに転じ、コレクションの形成、保存、活用について、各々がじっくり専門に取り組み、望ましい方向に伸展している努力と成果を評価いたします。 	<p>【評価できる点】</p> <p>可能な範囲で適切に巡回展が開催されました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションを活用した巡回展の実施、デジタルアーカイブの拡充、観賞アプリの開発、映像資料や紀要のデジタル化などの活動を評価したい。コレクションを未来に継承し、多くの人が活用できる基盤を整備することは重要。新収蔵庫の環境整備計画や作品修復についても、着実に進めていることを評価する。政策目標〈事業②〉「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」については、活用と継承は着実に実施できていると言えよう。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大規模改修に伴う休館を好機と捉え、作品画像の撮影・公開、日英での作品基礎情報・解説の作成、鑑賞アプリの開発、蔵書データの更新・公開など、地道な取り組みを続け、着実な成果を積み重ねている。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>美術館におけるコレクションの重要性を認識しているにも関わらず、作品購入やその予算化について議論されていないのは奇異に思える。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館の厚みのあるコレクションの活用について、トライアローグを良い例とし、既成にとらわれず、更なる工夫や発想をもって臨むことにより、鑑賞者もコレクションに対する鑑賞の幅をより広げられるのではと期待しています。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>予算の制約はやむを得ないことですが、リニューアルを記念した作品購入が期待されます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コレクションや資料のデジタル化はさらに拡充してほしい。「魅力的なコレクション形成」のための活動が停滞気味。収集費を確保するための文化基金の拡充や協力会のあり方検討など、市の主導で推進してほしい。いつまでに成果を出すのか中長期の工程表が必要ではないか。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>建物のリニューアルと合わせ、コレクションも充実が図られたと思えるようなシンボリックな作品の収集・購入の検討はできないだろうか。容易ではないと思われるが、設置者である横浜市とともに検討いただきたい。</p>
2 事業 ③	<p>【評価できる点】</p> <p>休館中であってもアウトリーチを積極的に展開し充実した教育普及事業を実施している。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教育や造形教育など各種プログラムを、改修やコロナ禍の状況に応じオンライン対応に切り替えるなど、丁寧かつスピーディに、様々な立場や属性をもつ人々に向け実施し、「横浜出前美術館」と銘打ってのアウトリーチ等、親しみのある糸口を以て美術と市民を繋ぐ工夫をされていることを大いに評価します。 ・教育普及事業の改修後の方針等について報告書をまとめるなど、休館中ならではの成果を確たるものとし、広くアート教育事業界全体の今後に反映をみる貴重な蓄積ともなると思います。 ・またアウトリーチ連携(高齢者施設)の横浜国大との講演会は、美術と現代高齢化社会のニーズについての意義あるプログラムであり今後につなげたい試みだと思えます。 ・市民ボランティアがオンラインやツイッターで、アートウォークや美術館建築について、その魅力の発信に取り組んだことは、学びと実践を伴う市民協働の一環として今後期待できます。 	<p>【評価できる点】</p> <p>アウトリーチ活動を実施しにくい情勢下で、各種の教育プログラムが安全に実施されました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「出前」やオンライン事業を積極的に行った点、仮拠点での新たな分野の造形教室の開催など、今後を見据えた試行的な活動も評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>休館中の制約のある中、オンラインでの鑑賞講座の実施、過去の活動の総括、仮拠点での造形教育の開催(コロナ対応含む)などに加え、改修後を見据えた新しい取り組みを行うなど、美術と市民をつなぐ活動を継続している。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特になし</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も職員のみならず様々な鑑賞者、教育現場や市民とも協働で、4つの暫定方針をより磨いていただきたいと期待します。 ・市民が美術館に愛着と誇りをもち、より主体性ある市民協働に伸展するよう、市民の発意を伴うプログラムの充実を期待し、美術館支え手としてのプラットフォームづくりが急がれます。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修期間中の教育活動を、今後の美術館ファン層やボランティアの拡大につなげていただきたいと思えます。病院等、医療施設でのオンラインによるアウトリーチのニーズは高いと思えます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>ボランティア活動に関しては、休館中は、文化観光拠点計画の活動にシフトしているようだが、これまでの多様な対象に対して実施してきた観賞体験の質を高めるための活動は大変重要。横浜美術館のボランティア活動は、生涯教育の場として、自身の学びや人生を豊かにするためにも実施されていたと思う。その点は今後も重視していただきたい。改修後は、大人・子どもと区別せずにアトリエ事業などを展開し、クリエイティブ・インクルージョンを今後の方針として打ち出してほしい。市民協働のあり方も同様に、分け隔てなく、多様な市民ともに美術館を築きあげてください。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修前までに実施してきた各種事業の成果や課題の振り返り、リニューアルオープン後の実施方針の検討などを、引き続き積み重ねることによって、改修前の事業を継続・発展させるもの、新たな取り組みとして立ち上げるもの(今後は障害者や高齢者、社会的弱者等への眼差しが重要になると思われる)、円滑で無理のない実施体制などを精査し、リニューアルオープン後も、横浜美術館ならではの教育プログラムにつなげていただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の運営事業①	<p>【評価できる点】</p> <p>オンラインショップを改修中も継続して開きながら、リニューアル後のあり方を検討をしている。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・ショップ・カフェのリニューアル後の方針及び委託についての決定がなされ、法人協賛制度案の支援対象事業の決定も一歩前進し、財政基盤の強化も図られつつあります。</p> <p>・業務効率化のためDX化の検討も行われ、「全体デザイン・プロジェクト」など各プロジェクトも始動に向けて活発に取り組んでおり、施設運営に総力を挙げている点を評価します。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>改修期間中、オンラインショップのグッズで一部ディスカウントされているものがありますが、適切な方針であると思います。カフェを直営ではなく、委託にするという決定も適切であると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>改修後を見据えて、方針などを検討した点は評価。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>休館中のオンラインショップの運営、改修後のショップ・カフェの4つの方針の決定、全体デザインプロジェクトの実施など、着実な取り組みが行われている。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>カフェ、ショップは来館者にとって美術館の魅力を高める重要な要素なので、収益性だけを考えずに展開してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>DX化等、今後益々社会の潮流になる分野であり、美術館全体としても、優れて対応できる豊富な人材の確保が必要だと思います。(DX対応はアウトソーシングとの組み合わせも可)</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>ショップの休館前の在庫商品は、休館中に完売するくらいの姿勢でオンラインショップを運営していただきたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「全体デザイン・プロジェクト」と整合をとりながら、開かれた美術館をめざしていただきたい。ただし、害虫被害や作品損傷などの事故が起きないように、コレクションを保存継承する美術館として相応しい環境下で実現してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>施設のリニューアルオープン後は、予期せぬトラブルや事態が発生することも考えられるため、開館後の施設運営について、十分な精査をお願いしたい。とくに全体デザインプロジェクトは、リニューアルオープンの成否を左右すると思われるため、その成果に期待したい。</p>
3 施設の運営事業②	<p>【評価できる点】</p> <p>「全体デザイン会議」を立ち上げて検討していること。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>「全体デザインプロジェクト」がスタートし、改修後の「みなとモデル」による運営の輪郭が整い、理念の「多様性」動線やサインに反映されるなどサステイナブルな運営へむけて着実な進捗があることは評価に値します。館内横断プロジェクトの考え方が、組織力の創造性や柔軟性をあげていると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>開館以来の活動記録のデータベース化は重要な取組であると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>改修後を見据えて、「全体デザイン・プロジェクト」などを市と協働で推進している点は評価。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>3 施設の運営事業①にまとめて記載</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>デザインは事業の内容と共に全体の成否を分ける鍵になる可能性が高いので、その認識を関わっている人たちが共有して進めてほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>財政基盤については改修後の新しいステージを見据え、工夫や新たな発想を以て、社会の変動にも耐える実力を培い一層強化されることを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>設備更新について、カーボンニュートラルの世界的な流れに沿う方向で進めていただきたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「全体デザイン・プロジェクト」と整合をとりながら、開かれた美術館をめざしていただきたい。また、職員の世代交代が進む中、人材育成や人材強化にも計画的に取り組む、持続可能な運営を実現してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>3 施設の運営事業①にまとめて記載</p>
4 その他の業務	<p>【評価できる点】</p> <p>特になし</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>政策課題解決の協議も適正に行われています。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>今回の大規模改修のようなプロジェクトの時にこそ、政策協働方式のアドバンテージが活かされるのではないかと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大規模改修推進と改修後の方針検討に関しては、政策協働のもと、市と指定管理者が役割分担をし進めている点を評価。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>特になし</p>
5 人員計画	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナ下において、人々の心の問題、公立施設における文化事業の重要性についての共通認識は増していると思う。その重要性に沿った人員の増員、予算措置をしていただきたい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・大規模改修、社会変化等の状況変化に柔軟に対応しつつ、市と指定管理者が連携を密に、未来にむけて方向性を同じくし、市民にとって望ましい管理運営を実現し、その文化的成果を市民に還元していただくことを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「政策協働」方式の節目の時期が近づいています。政策協働方式であったことのプラス、マイナス面について整理・点検を進めていただきたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>改修後の方針については、指定管理者に任せきりにならないよう、横浜市も責任を持って取り組んでほしい。また、専門家だけでなく、必要に応じて市民や協力者の意見を聴取しつつ進めていただきたい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特になし</p>
6 留意事項					

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
7 特別 事業	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 大規模改修に伴う、通常とは異なる各業務に真摯に取り組んでこられたことは大いに評価できます。	【評価できる点】 改修作業が市との連携の下、順調に進められています。	【評価できる点】 大規模改修に向けての業務が順調に進んでいる点を評価。 また、令和5年度の移転からヨコハマトリエンナーレ開催までの期間が短いことを憂慮していたが、ヨコトリを優先事業として、移転業務を分散して実施するなど、適宜検討・対応できている点も評価したい。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】 特になし	【更なる取組を期待する点】 横断的に各プロジェクト組んで、横浜市とも綿密に連携を成し、課題をクリアしつつ、リニューアル後へのシフトが順調にいくことを期待しています。	【更なる取組を期待する点】 特にありません。	【更なる取組を期待する点】 改修後の記念事業は、ヨコハマトリエンナーレとその後の企画展の2つとして実施してほしい。特に、ヨコトリ後の企画展こそ、新生・横浜美術館のお披露目として位置づけ、市民との対話の場も多く設け、理解者や協力者を増やしていく活動にも尽力してほしい。	【更なる取組を期待する点】 特になし
8 収支 計画	【評価できる点】 文化庁の補助金によって結果的には対予算増となった。	【評価できる点】 文化庁の補助金の獲得、「やどかり」プログラム収入、オンラインショップ売り上げ等獲得は対予算で成果をみせ、通常業務と異なる環境ですが健闘しています。この流れは、収支の面からだけでなく、やどかりやオンラインショップが一般に支持された証左でもあり、また文化庁の補助金獲得も評価できます。昨今の見通しのたてにくい社会変化の中にあって、積算の後先が生じることもありましたが、良く健闘されていると評価します。	【評価できる点】 外部資金が獲得できました。	【評価できる点】 補助金の獲得、経費の削減など、財源確保に尽力している点を評価。特に、文化庁の文化観光拠点計画における5ヵ年にも及ぶ補助金の獲得については大いに評価したい。事業費の3分の2は国が補助するが、残りの3分の1は財団が出捐するという決断を下したことに敬意を示したい。	【評価できる点】 文化庁の補助金獲得は、休館中の事業・運営の財源となっており、大いに評価できる。
	【更なる取組を期待する点】 文化庁の補助金頼みでの予算ではなく、文化事業の重要性を鑑みて市の予算の中で編成すべきである。	【更なる取組を期待する点】 健全で持続可能な美術館であるために、リニューアル後の収支計画にも補助金、協賛やコレクションフレンズはもとより、市民によるファンドの仕組みの実現等、芸術面を支える仕組みを厚くし、文化資産である横浜美術館の財政基盤を盤石にと期待します。	【更なる取組を期待する点】 令和3年度は、移転関係費予算が移転期間中で最大になる年度かと思います。移転関係費の項目別の内訳は、委員会の資料として開示していただきました。移転終了後にも、資料を開示していただきたいと思っています。	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】 光熱水費など、リニューアル・オープン後の経費については、正確な見通しが難しい要素もあるため、指定管理料(特に施設の維持管理費)については、横浜市に柔軟な対応をお願いしたい。

総括	<p>ヨコハマトリエンナーレやコレクション展の国内巡回、教育普及事業やオンラインショップ、デザイン計画など、大規模改修中の事業を確実に実施している。それに比して、作品購入のために予算化が実施されていず、他の予算も文化庁の補助金頼みというのは、国際都市横浜としては如何なものかと思う。</p>	<p>・リニューアルに向けての改修は、細密な計画や準備を要する膨大な業務だと推察しますが、制約をプラスにとらえ、「やどかり」発想など印象に残る外部発信も含め、トリエンナーレの準備、美術情報センターの報告書作成や資料のデジタル化、若手アーティストの展覧会など、着実に良い成果を収めています。</p> <p>・とりわけ未来への継承としての、コレクションの活用が確たる成果をあげており、魅力あるコレクションを、各地と連携し多くの鑑賞者に届けていることを高く評価したいと思います。</p> <p>・更に海外ネットワーク構築にも努め、横浜のシンボルとしての美術館の魅力と存在感を国内外に示しています。教育普及事業もコロナ等に臨機応変に対応しながら実施、市民協働も学びと実績をあげており、様々な工夫を以て美術館の魅力を市民に伝える横浜美術館発のマインドが随所に観取されます。館内横断的なチーム作り、若手も皆気軽に発想を出し合える空気が業務の質を高め、リニューアル後も闊達、新鮮な運営展開がされるのではと大変期待しています。</p>	<p>「政策協働方式による指定管理」という特色ある指定管理の仕組みは、今回の大規模改修・休館の時にこそ、その機能が発揮されるのではないかと考えています。そうした成果と断言するわけではありませんが、これまでのところ大きなトラブルの報告もなく、大規模改修のプロジェクトが順調に進められており、当委員会委員として、横浜市民として、安堵しております。リニューアル再開後の美術館について市民・来館者は期待していることと思います。再開後の姿について、ホームページやSNSを通してさらに積極的に発信していただきたいと思っています。</p>	<p>市民と共有できる改修後の将来像(ビジョン)を掲げてほしい。国際都市横浜にふさわしく、開かれた美術館をめざし、これまでの活動を継承し強化することとし、クリエイティブ・インクルージョンを大きな目標・方向性としてはどうだろうか。検討していただきたい。</p>	<p>大規模改修・休館という状況の中、Webによる積極的な情報発信、教育プログラムの実施など美術館活動を継続させている点、休館によって生み出された時間を有効に活用して作品画像の撮影など美術館としての基礎体力の充実を図っている点、そして、リニューアル・オープン後の事業や運営の検討・準備について職員全員で取り組んでいる点を評価したい。</p> <p>来年12月の開館まで気の抜けない状況が続くと思うが、大規模改修と休館が横浜美術館の新たな展開につながるよう、引き続き、検討・準備を進めていただきたい。</p>
----	---	---	--	---	---

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p>使命</p> <p>(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。</p> <p>(2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集・整理・保管、活用し、未来に継承します。</p> <p>(3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。</p> <p>(4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	令和3年度計画		実施状況				
	項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
1 経営 政策目標(経営)横浜美術館は国際都市横浜の魅力を引き伸ばす。	1	(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]	●ヨコハマトリエンナーレ2023に向けた準備	通年	実施	- 実施【達成】 ・10/19,26,27職員研修 ・12/7,2/1アーティストティック・ディレクター(AD)選考委員会	
	2	(2) 海外への発信 [重点的な取組み]	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回	改修後の海外発信についての調査に基づいた報告書 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	3	(3) 広報	●ウェブ等で活動を発信	通年	実施	- 実施【達成】 ・8月 18区アウトリーチウェブサイト公開 ・9月 休館中事業プレスリリース発行、休館中特設ウェブサイト公開、休館中発信開始(Twitter収蔵作家誕生日) ・10月 note公式アカウント公開、メールニュースHTML化、休館中発信開始①note:18区アウトリーチレポート、職員インタビュー、今月の1点②Twitter/Facebook:横浜美術館クイズ、休館中日記 ・1/23〜 神奈川新聞連載開始(〜R4.12)	
	4		●改修後の広報基本方針の策定	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	5		●改修後のウェブサイト充実・公開	検討	実施	- 実施【達成】 ・6月 プロジェクト始動:R5公開予定	
	6	(4) 外部との連携	●改修後の外部連携について、基本方針と当館組織について検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	7		●外部連携に資する美術館主催会議の実施 【追加実績】	検討	実施	- 実施【達成】 ・10月 R3-4実施しない旨決定 A 【追加実績】1件 ・9/18,10/23,12/4,3/10 オンラインツアー:建築,コレクション,ワークショップ,インバウンド(YMM21連携)(文化庁文化観光拠点計画)	
2 事業 政策目標(事業①)質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます	1	(1) 企画展	●改修後の企画展準備	企画展案検討会議 1回/年	13回/年	A	13回/年【達成】 ・9月 展覧会会議開始:R6-7展ほか
	2		●改修後の展示計画の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	3	(2) New Artist Picks	●若手アーティストの小企画展を開催	1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・3/12 村上早@横浜美術館仮囲い(〜11/6)
	4		●展覧会后5年間の作家の活動を把握:1回/年	1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・8月 実施

評価		自己評価	行政評価
【成果:改修後にに向けた検討】	・ヨコハマトリエンナーレ2023(YT2023)に向け、秋には、現代美術史・国際展の歴史・横浜市の政策などについて職員向けの研修を行い、冬には多様な国籍・性別の選考委員によるアーティストティック・ディレクター(AD)の選定を行っています。	【評価できる点】	・横浜美術館の大規模改修による休館中ながら、横浜美術館のウェブサイト上で「横浜美術館は休館中も活動中」と銘打ち、特設サイトを設けて仮拠点や仮拠点以外での取組を積極的に紹介しました。
【課題】	・美術館を拠点に4回開催してきましたが、今後、一層発信力を高めつつ、持続的に開催していくためには、組織体制の強化、人材の確保、会場の安定的確保等の課題を横浜市と財団が協力して解決していく必要があります。	【課題】	・文章や写真等の配信サイト「note」での公式アカウントを開業して、職員の様子やコレクション紹介のコンテンツの作成等を伝えたいほか、令和4年1月から神奈川新聞日曜版で月1回の連載「アート彩時記」も始まり、休館中も多角的に活動の発信を進めた点を評価します。
【成果:改修後にに向けた検討】	・海外発信についての報告書を作成しました。3つの専門家向け国際会議にオンラインで参加し、コロナ禍での作品輸送の変化や体験型デジタルコンテンツの増加、分断が進む世界の中での多様性を擁護する美術館の意義、様々な世界の課題により柔軟に対応することができる国際展の意義をグローバルな視点から確認し、美術館のキュレーターや巡回展担当や国際展担当者との関係を継続的に構築しています。特に、各会議においてYT2020は、コロナ禍での開催事例として取上げられ、双方向的な関係構築に寄与しています。(参照:提案書事業目標2)	【課題】	・文化観光拠点計画の一環として、一般社団法人横浜みなとみらい21主催のオンラインツアー(計4回)を同法人とともに企画し、実施にも協力して、外部連携を進めた点に加えて、横浜美術館の魅力を国内外に広く紹介した点を高く評価します。
【課題】	・新型コロナウイルス感染拡大により、人的・ソフト的な交流を具体的に検討するのが難しくなっています。そうした状況下で、以下の取組を継続していくことが課題と考えます。	【更なる取組を期待する点】	・新型コロナウイルスの感染動向を見極めつつ、海外との連携強化を続けていくことを期待します。
①国際巡回:IEO(International Exhibitions Organizers会議)のZOOM会議に継続的に参加し、情報収集/意見交換の機会を確保する。	②海外インターン:受入れが困難な現況に鑑みて、海外ネットワーク構築の強化に重点を置く。	・リニューアルオープンを見据えた検討結果について、実情に対応しつつ滞りなく実行に移すことを期待します。	
※ICOM、CIMAMの会員となり、全職員が世界の美術館の動向を継続的に調査・把握できる体制を整えました。			
【成果:休館中の事業等】	・移転後の8月より、休館中の事業の発信を開始しました。仮拠点以外での活動を「出前」、仮拠点での活動を「やどかり」と名付け、特設サイトを開設し発信するなど、お客様から見えにくくなる休館中の活動に親しんでもらえるよう努めました。	【成果:休館中の事業等】	・大規模改修中の横浜美術館の仮囲いを使った「New Artist Picks: Wall Project」を企画して令和3年度中の開催に結びつけ、休館中の企画展として実績を残したことを評価します。
・下半期からは、クリエイティブに強いnoteの美術館公式アカウントを開始したほか、「職員インタビュー」「休館中日記」などを通じて休館中の様子を紹介し、「今月の1作品」などで館の顔であるコレクションを紹介するなど、新しいコンテンツの提供も行いました。これらのコンテンツをより有機的に発信するため、メールニュースをhtml版としました。	・また、1/23から約一年にわたり、神奈川新聞でコレクションを紹介しています。	【課題】	・展示の導線計画や人員配置案の検討、コレクションの常時展示の方針決定など、リニューアルオープン後にに向けた準備を着実に進めていることを確認できました。
【成果:改修後にに向けた検討】	・広報に関する改修後の方針等について、報告書を作成しました。他館等の調査やヒアリング等を行い、基本方針として、①第3期指定期間の提案書で定めた「はとばエリア(仮称)」における活動発信②コレクションに関わる発信の強化③企画展広報の業務効率化④ウェブサイト・SNSの戦略的運用と業務効率化、の4点を現段階で決めました。(参照:提案書事業目標4)	【課題】	・更なる取組を期待する点】
・改修後のウェブサイトについては、ユーザーや専門家等への調査、館内グループ横断の「ウェブサイトリニューアルプロジェクト」での検討を行い、基本方針を策定しました。また、日時指定予約システム、VR等デジタルコンテンツ、英語コンテンツ、美術館周辺回遊策(いずれも文化観光拠点計画)等の様々なコンテンツを集結するため、各調査を進めています。(参照:提案書事業目標5,6)		【課題】	・大規模改修後において、ギャラリー以外の場所を活用した多様な展示の実現を期待します。
【課題】	・新たなメディアを活用しながら、効果的に休館中の活動を発信することや、リニューアルを見据えたウェブサイトのリニューアルを行う必要があります。また、館の発信力を高めるために人的体制を整えることも重要な課題であると考えます。	・リニューアルオープンを見据えた検討結果について、実情に対応しつつ滞りなく実行に移すことを期待します。	・メディア共催展などの大規模展による来場者数の維持が難しくなっている状況の中、新たなスキームづくりについて早期の検討をお願いします。
【成果:休館中の事業等】	・横浜みなとみらい21が主催する「新たな魅力発見!オンラインツアー」に協力し、美術館建築、コレクション、ワークショップを取り上げ、横浜美術館の多面的な魅力を紹介しました。(文化庁文化観光拠点計画)	【課題】	
【成果:改修後にに向けた検討】	・外部連携の改修後の基本方針等について、報告書を作成しました。他館ヒアリングや現在のSDGsへの関心の高まりをしめす各種アンケートなどを参照して、①美術館をとりまく個人・法人のコミュニティーの構築、②市民生活における美術館のプレゼンス向上を目指して、美術館が社会課題の改善に積極的にかかわる「ソーシャルグッド事業」を新たに開拓することを基本方針とする旨、現段階で決めました。(参照:提案書事業目標5)	【課題】	
【課題】	・リニューアル後の外部連携の方針について、美術振興に加え、収益性、にぎわいの創出、市の政策への寄与などの観点から検討することが課題と考えます。		
【成果:改修後にに向けた検討】	・改修後の展覧会についての検討を進め、展示計画についての方針等について、報告書を作成しました。全グループメンバーによる「新たな美術の価値創造につなげる展覧会の企画検討プロジェクト」を組織し、大手メディアの文化事業部担当者をはじめとする関係者へヒアリング等をし、また、過去の企画展の分析からR6-7年度の展覧会の方向性について検討を行いました。		
・改修後の展示計画については、人目を引く場所に新設されるアートギャラリー3(仮称)とアートギャラリー2の各々の環境に適した展示について議論を重ねました。そして、展示室増加や人流の変化を想定した企画展・コレクション展等の動線計画と人員配置案を検討しました。			
・また、コレクション展方針については、年間を通してコレクションの名品が常時展示されるコーナーを設ける方針を固め、今後、場所や展示内容の検討を進めることになりました。(参照:提案書事業目標2)			
【課題】	・企画展については、メディア共催展が東京の一部の地区に集中し始めており、そうした大規模展によって横浜美術館の従来の来場者数を維持することが難しくなっています。その状況を踏まえ、展覧会の質的水準の高さと収支バランスの両立を目指した新たなスキームづくりに取組むことが喫緊の課題と考えます。		
【成果:休館中の事業等】	・R3・R4年度の2回を「New Artist Picks: Wall Project」と称して、改修中の美術館の仮囲いで展示することとし、その1回目として版画家の村上早の展示を3月より開始しました(会期:3/12-11/6)。		
【課題】	・大規模改修後は、より多様な分野の作家を紹介し、来館者の裾野を押し広げるために、ギャラリー以外のさまざまな場所を活用した展示に積極的に取組む必要があります。その実現に向けた財源の確保と条件の整備が課題と考えます。		

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命

- (1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
- (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
- (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
- (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況			
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績		説明	
政策目標(事業②)魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	5 (1) コレクション	●コレクションの形成に関する通常業務 【追加実績】 ●コレクションの保存 ・保存等に関する通常業務 ・改修後の新収蔵庫への収蔵計画立案と準備 ●コレクションの活用 ・コレクション国内展 ・コレクション画像撮影・公開 ・改修後のコレクションデータベースおよび作家アーカイブ 【追加実績】 ・改修後のコレクション展方針の検討	内部検討委員会開催 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・10/22 内部検討委員会@市庁舎 ・11/25 収集審査委員会@外部倉庫	
			-	-	-	-	-
			6	随時	実施	-	実施【達成】
			7	立案	検討	-	検討【取組時期変更】 ・10月 R5立案にむけ始動
			-	-	-	-	-
			8	1回/2年	1回/2年	A	2回/年【達成】 ・4-6月,11-1月 トライアログ展巡回@愛知、富山
			9	撮影・デジタル	実施	-	実施(文化庁文化観光拠点計画)
			10	拡充	実施	-	実施(文化庁文化観光拠点計画) ・8月 プロジェクト始動:R4-6に750点公開予定
			-	-	-	-	【追加実績】1件 ・3/14 コレクション鑑賞アプリ【HTA:野村総研】
			11	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
			12	(2) 美術情報センター	●業務で利用する図書資料の出納(開架図書及び閲覧エリアは休室)	随時	実施
13	●所蔵映像資料デジタル化・公開	変換作業/データ整理	実施	-	実施【達成】		
14	●蔵書のデータ更新・公開	作業	実施	-	実施【達成】		
15	●改修後の活動方針(配架案・閲覧室レイアウト・普及活動含む)と組織の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	-	1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告		
16	(3) 調査・研究	●紀要の発行(論文3本以上,日英併記,販売検討)[再掲:日英併記]	1回/年	1回/年	B	1回/年【達成】 ・12月 直近6年分紀要のPDF版ウェブ掲載 ・3月 発行	

評価		自己評価	行政評価
【成果:休館中の事業等】 ・収集については、10月に内部検討委員会を市庁舎で、11月に収集審査委員会を外部倉庫で開催し、保存については、定期的に外部倉庫の作品を点検しています。 ・国内巡回展については、昨年度当館で開催したトライアログ展が本年度2つの共同企画館(愛知県美術館、富山県美術館)に巡回し、また来年度には、郡山市立美術館にて当館の日本画コレクションによる展覧会「横浜美術館所蔵日本美術院の作家たち展」が開催される予定です(会期:4/23-6/5)。 ・コレクション作品画像の撮影・公開については、コレクション1万3千点のうち、昨年度末までに7千点以上の画像を公開しましたが、今年度末で1万点を超える作品画像をウェブサイトで閲覧できるようになりました。(文化庁文化観光拠点計画) ・夏より「コレクションの魅力発信プロジェクト」として、コレクションにまつわる日英両語での情報発信を強化し、作品基礎情報(全作品を予定)および作品解説(R4-6に750点を予定)の公開に向けて、データの整備と執筆作業を開始しました。特に作品解説については、幅広い世代の方々に読みやすいよう簡明な文体と表現方法について事前に検討を重ねました。(文化庁文化観光拠点計画) ・野村総合研究所若手社員と当館内グループ横断の職員による「YMA&NRI ART DX プロジェクト」を通じて、コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ？」を開発し、3/14にリリースしました。 【成果:改修後にに向けた検討】 ・夏より「コレクションの形成・保全あり方検討プロジェクト」を推進しました。コレクション形成については、市との協議を経て、リニューアルオープン記念美術品購入に関するリサーチ、および記念購入にふさわしい作品の絞り込み、提案を行いました。また、保存については、特に、保存環境とスペース効率の向上に留意し、R5年度の新収蔵庫への収蔵計画立案にむけて検討を開始しました。また、改修後の展示に向け、修復が必要な作品を洗い出し、優先度の高いものから順次修復を行っています。(参照:提案書事業目標1) 【課題】 ・大規模改修に伴う収蔵庫の拡充など環境の整備と文化基金の充実が課題と考えます。 ・大規模改修期間のコレクションの保管・蔵置方法とあわせて活用の検討が課題です。		【評価できる点】 ・R3年度に愛知県美術館、富山県美術館で巡回されたトライアログ展のほか、R4年度には郡山市立美術館で横浜美術館の日本画コレクションによる企画展が開催されることとなり、大きな成果を挙げました。 ・文化庁補助事業の文化観光拠点計画の補助金も用いながら、コレクション画像の公開を進め、1万点を超える作品画像をウェブサイト上で閲覧できるようにした点を評価します。 ・美術情報センター所蔵の映像資料のうち、約200点を選んでデジタル化を行うなど、コレクション以外の点でも大規模改修中の事業を着実に進めました。 ・直近6年間の紀要論文のウェブサイトでの公開など、調査・研究でも外部に向けた発信を進めていることを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・大規模改修中のコレクションの更なる活用を期待します。 ・リニューアルオープンを見据えたコレクション、美術情報センターに関わる検討が一層、進むことを期待します。	
【成果:休館中の事業等】 ・業務で利用する図書資料は、8月以降は定期的に外部倉庫から出納し、また、蔵書のデータ更新・公開を随時実施しています。 【成果:改修後にに向けた検討】 ・美術情報センターの改修後の活動方針等について、報告書を作成しました。「「学びの場」づくりに向けて美術情報センターの活動・運営スキームを刷新するプロジェクト」を進め、他館へのヒアリング調査を行いました。改修後の活動方針については、収蔵方針案①横浜美術館の活動にかかわる図書や資料②所蔵作家のレゾネ(総目録)、関連図書③国内外の国際展、芸術祭のカタログや関連図書④丹下健三、横浜の都市計画関連図書⑤教育普及関連図書)と運営方針案①ライトユーザー向け②専門家向けをまとめました。なお、組織については、R4年度に継続的に検討を行い、R5年度計画案で提案します。(参照:提案書事業目標3) ・所蔵映像資料デジタル化については、開館前後に収集された一般向けの美術番組(磁気テープメディアあるいは16mmフィルム)約840点から、開館時に制作したオリジナル番組を含む約200点を 選定して、デジタル化を行い、改修後の公開にむけた準備に着手しました。 【課題】 ・環境の整備と効率的で質の高い事業の継続的な提供が課題と考えます。			
【成果:休館中の事業等】 ・直近6年間の紀要論文をウェブサイト上で公開しました。また、年度末に紀要を発行しています。 ・今年度より、紀要の専門性を高めるため、紀要原稿の内容等についてアドバイスする財団内職員を各執筆者が指名するという仕組みの運用を始めました。今後、外部校閲者の導入も検討しています。 【課題】 ・学芸員の研究活動を確保できるよう、研究環境の整備が課題となります。 ・現在の紀要は、サマリーを和英で掲載しています。将来的には、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信するための財源の確保が課題と考えます。			

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命

- (1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
- (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
- (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
- (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	令和3年度計画		実施状況			
	項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明
政策目標(事業③)美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	17	(1) 教育プログラム:鑑賞教育 [重点的な取組み]	●仮拠点におけるワークショップ	7回/年	19回/年	A 19回/年 ◇中高生向け【振返り】 ・5/9,30 中高生プログラム冊子作成(オンライン) ・10月 中高生プログラム冊子完成 ◇教員向け ・6/12,9/11 教員向けコレクション鑑賞会(オンライン) ・6/5,6,20 教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード報告会準備【振返り】 ・7/4 長崎教員向け研修会(オンライン)□ ・7/28 横浜市芸術文化教育プラットフォーム教員向け研修会(オンライン)□ ・12/11 横浜市芸術文化教育プラットフォーム教員向け研修会+教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード報告会【振返り】(オンライン) ◇一般向け□ ・11/13,12/4,2/12,3/19 横浜の文化史講座(オンライン) ・3/2,3 ボランティアによるアートで街歩き3回(オンライン)(文化庁文化観光拠点計画) ・3/18以降ボランティアによる美術館建築発信(オンライン)
	18		●改修後の鑑賞教育方針、事業の枠組み(アートギャラリー1での開かれた活動含む)、組織の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B 1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	19	(2) 教育プログラム:子どものアトリエ	●仮拠点におけるワークショップ	10回/年	13回/年	A 13回/年【達成】 ・11/6 木の車(オンライン) ・11/13 オリガミ(オンライン) ・11/20 どうぶつ(オンライン) ・11/27 大日本タイポ組合(アトリエ共催)(オンライン) ・1/29 押忍手芸部(アトリエ共催) ・2/12 ハートグラム2回 ・2/26 デカルコマニー(アトリエ共催) ・3/25 教師のためのワークショップ2回(オンライン) ・映像公開:9月 作品移転映像公開 1月 じっくりみるこの一点2作品公開
	20		●改修後の子ども向け造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B 1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
	21	(3) 教育プログラム:市民のアトリエ	●仮拠点におけるワークショップ	10回/年	12回/年	A 12回/年【達成】 ・11/27 大日本タイポ組合(アトリエ共催)(オンライン) ・12/7,14,21 粘土(オンライン) ・1/15 イサム・ノグチトーク ・1/29 押忍手芸部(アトリエ共催) ・2/1 認知症幻視体験トーク ・2/19 糸紡ぎ ・2/26 デカルコマニー(アトリエ共催) ・3/12 ライブラリートーク(オンライン) ・映像:11月じっくりみるこの一点2作品公開
22		●改修後の大人向け造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年	B 1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <p>◇鑑賞 ・鑑賞教育では、過去の振返り、学校向け講座、一般向け講座をほぼ全てオンラインで実施しました。 ・過去の事業のまとめとして、前年度に実施した中高生プログラムの冊子を作成し、これまで実施してきた教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロードについての成果を振り返るシンポジウムをオンラインで実施し、また、若者の自立を支援している福祉施設へのアウトリーチについて大学と連携して実施予定の振返りシンポジウムの準備を行うなど、休館中の機会を活用し、年間を通じて過去の活動を総括する事業を行いました。 ・学校との連携については、コレクションの教師向け鑑賞会、教師向け研修会を開催して、専門性を活かしながら学校の教師、教育委員会他との連携を引き続き継続しました。 ・一般に向けた講座としては、ボランティアによる横浜の文化史や横浜建築などをテーマにしたアートウォーク(文化庁文化観光拠点計画)と、横浜の文化史の専門家による講座を提供しました。 ◇アトリエ ・造形教育(子ども対象・大人対象)では、個人に向けた講座を、各々約10回仮拠点で開催しました。 ・当初は、全て対面での実施を予定していましたが、8月に、コロナ禍の状況を鑑み、令和3年内はオンラインで実施することになり、急遽、オンラインで実施可能な講座の内容に変更しました。 ・このような状況の変化はありますが、講座の内容については、従来より行ってきた造形講座等を継続しつつ、改修後を見据え、コレクション研究に基づいた講座やタイポグラフィや手芸を用いた現代アーティストによる新領域の講座を、子どもと大人を交えて展開するなど新しい取組みを行いました。また、高齢者施設へのアウトリーチで連携してきた横浜国立大学と「美術と認知症幻視」について、認知症当事者を招き、学生、一般参加者とともに考える講演会なども実施しました。 ・そして、教師のためのワークショップも継続し、学校連携を休館中も絶やさないようにしました。 ・同時に、若手職員が「オンライン発信!プロジェクト」を前年度から立上げ、コレクションをじっくり見せる映像、コレクションの移動準備の様子を伝える映像を配信し、さまざまな方が美術館を体験できるような努めました。</p> <p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>・教育普及事業の改修後の方針等について報告書を作成しました。若手職員による「e未来プロジェクト」を立上げ、上半期には、今後10年を見据えた教育普及活動全体の理念や枠組みについて、グループ全職員が気軽に意見を出し合うワールドカフェや既存事業のマッピング等を通して課題の抽出を行い、下半期には、個別事業の活動方針について、必要に応じて館内グループ横断で協議を重ねました。鑑賞教育/子ども向け造形教育/大人向け造形教育の活動方針については、①誰もが安心して自分らしくいられる場所②コミュニケーションが生まれる場所③何度訪れても感性が刺激され新しい視点が得られる場所④自ら発見し考える力を養うことを後押しする場所、といった4つを暫定的に決定しました。なお、事業の枠組み、組織については、R4年度に継続的に検討を行い、R5年度計画案の中で提案します。(参照:提案書事業目標3)</p> <p>【課題】</p> <p>・鑑賞教育は設立以来、多様な来場者への鑑賞機会の提供、学校連携とボランティア活動の立ち上げと拡大を担い、毎年新しい事業に挑戦し、メディアや美術館関係者の注目を集めています。実施にあたっては、当初想定していたよりも人的稼働がかかっています。 ・造形教育では、時代によって変わっていく人々と美術をつなぐことを通じて、様々な人が集い感性を高め合う場を実現するため、社会的動向に即した造形のプログラムを実施する必要があります。 ・鑑賞教育および造形教育に共通して、利用者の信頼のもと質の高い鑑賞プログラムを継続的に実施するため、作品や造形に関する知識と経験、コレクションの調査研究、教育学等に基礎付けられた知見の継承が必要なため人材の確保、長年に渡る育成が課題です。 ・また、従来取り組んできた手法にオンラインの活用なども加えプログラムの開発や展開をしつつある中で、それに伴う人材や予算の確保が課題です。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・休館中の事業として、仮拠点の内外での事業に幅広く取組み、横浜美術館の存在感を高めたことは特筆すべきこととして高く評価します。 ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、鑑賞教育やアトリエ事業をオンラインに切り替えるなど、臨機応変に対応しながら実施しました。 ・鑑賞教育については過去の活動の総括を行い、アトリエ事業では大規模改修後を見据えた新たな取組に挑戦したほか、教育普及事業の大規模改修後の方針をまとめるなど、休館中ならではの活動の充実がみられました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、アウトリーチ事業を充実させ、オンラインを交えながら計画を上回るアウトリーチを行ったことを評価します。 ・「横浜[出前]美術館」と名付けた市内18区におけるアウトリーチは、仮事務所への移転後の市民向け事業として9月にいち早くスタートさせ、開始後も計画的に継続開催して、横浜美術館の休館中の活動として強くアピールしました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・リニューアルオープン後を見据え、長期にわたり持続可能な活動内容と人員体制のバランスを整えていくことが重要です。休館中の更なる検討を期待します。 ・外部連携と連動したコレクション・フレンズの再構築を期待します。</p>

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命
 (1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
 (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

項目	評価項目	目標の実践	令和3年度計画		実施状況		
			達成指標	目標	実績	説明	
	23	(4) 市民協働: ボランティア等	●鑑賞ボランティア活動(ピジターサービスボランティア活動含む)	30人/年	30人/年	A	47人/年【達成】 ・7月 募集説明会(オンライン) ・10月 ガイドダンス・活動開始(オンライン)
	24	(5) 市民協働: コレクション・フレンズ	●改修後のコレクション・フレンズの再構築: 制度設計	大規模改修後に向けた準備	実施	-	検討【取組時期変更】 ・10月 R5立案にむけ始動
	-	(6) 市民協働: 各種社会貢献事業	●アウトリーチ ・福祉施設、病院等、高齢者施設、その他	-	-	-	-
	25			12回/年	30回/年	A	30回/年【達成】 ◇福祉施設・病院・高齢者施設など ・1/25 横国大連携授業(高齢者関連)(オンライン) ・3/22 福祉施設2か所ワークショップ(オンライン) ・3/23 横浜市西部地域療育センターワークショップ ◇学校向け ・11/26 本郷中特別支援学校ワークショップ(オンライン) ・3/18 本郷中職業講話2回 ◇教員向け ・8/24 市特別支援教育研究会研修@東小(オンライン) ・12/18 市特別支援学校教育研究会@北綱島特別支援学校 ◇近隣 ・11/26 日産社員研修講演(オンライン) ・11/27 HCD-net フォーラム2021講演(オンライン) ・10/15,1/25 コレクショントーク【HTA: 野村総研】(オンライン) ・12/6 デッサンワークショップ【HTA: 野村総研】 ・1/18 男女共同参画センター対話型鑑賞ワークショップ ・1/20 県主催「MICE連絡会」講演(オンライン) ・2/19 横浜市民ギャラリーワークショップ ・6月、3月 3つの医療施設系団体に「デコ車キット」15台、20台、15台提供【HTA: NTTテクノクロス】 ・7月 職員家族に「デコ車キット」30台提供【HTA: 野村総研】 ・1月 5支店を通じ地域の保育園等に「デコ車キット」160台提供【HTA: 横信】 ◇横浜市芸術文化教育プラットフォーム ・10/13,20,27 永田台小【三ツ山一志】 ・12/10,17,2/28 横浜吉田中【ヒサクニヒコ】 ・1/24,2/7,2/22 本郷中【長島有里枝】 ・2/24,25 港南中【新井卓】
	26		・18区	3回/年	7回/年	A	7回/年【達成】 ・9/11 青葉区 ・10/30 栄区 ・12/4 西区【岩井優】 ・12/18 磯子区 ・1/22 鶴見区 ・2/26 戸塚区 ・3/19 金沢区

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果: 休館中の事業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 約50人の鑑賞ボランティアが下半期から活動を行いました。上述の通り、当館コレクションに描かれた横浜の各所を巡るアートウォークをオンラインで実施したり、Twitterで丹下建築の魅力を発信するなどしました。(文化庁文化観光拠点計画) コロナ禍を鑑みて、先方との相談の結果、病院、高齢者施設、みどりアップ事業、企業とともにHeart to Art事業等の実施を見送りました。このような状況下ではありますが、社会包摂および地域連携を重視し、福祉施設、特別支援学校を含む教育施設、財団内文化施設などへの計画を大きく上回るアウトリーチを行い、また、横浜市芸術文化教育プラットフォームの一環としてプログラムを提供しました。 さらに、18区における財団内および市の文化施設へのアウトリーチについては、館内グループ横断の「横浜[出前]美術館実行委員会」を前年度から始動させ、コレクションに関するトーク、作家によるトーク、子どもあるいは一般向けのワークショップ等を、本年度中に7回実施しました。残りの11区には、大規模改修による休館中にアウトリーチを行う予定です。 <p>【成果: 改修後に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修後のフレンズの制度設計については、外部連携の基本方針に則り、R4年度に継続的に検討を行い、R5年度計画案の中で提案します。(参照: 提案書事業目標3および5) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアルームなどの環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を継続的に提供していくことが課題です。 美術館協会との関係を活かし、館を市民が支えてくださる仕組作りが課題と考えます。 社会的に期待の高い取組のため、改善すべき事項や効果を検証し、そのノウハウを着実に蓄積することが課題と考えます。 	

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
(2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
(3) 未来をなう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
(4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
3 施設の運営事業 政策目標(施設運営①) お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	1	(1) 来館者サービスの充実	●改修後の来館者サービスの基本方針および当館組織について検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	検討 【取組時期変更】 ・10月 R5立案にむけ始動	
	2	(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップでのオンラインでの販売	実施	実施 ・7/12-27 オンラインショップ一時閉店	
	3		●改修後のショップおよびカフェでの開かれた活動についての方針と当館組織の検討	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年 B 1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告	
政策目標(施設運営②) 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	4	(1) 適正な施設管理	●横浜美術館の施設管理	4-9月実施	実施 - 実施【達成】 ・9/30市に引渡し	
	5		●大規模改修:市と協働	通年	実施 - 実施【達成】 ・7月 全体デザイン・プロジェクト始動:R4内装設計予定 ・8月 DX始動 ・9月 サーバー・PCリプレイス始動	
	6		●改修に伴う作品・資料・事務所移動及び管理業務(改修に伴う作品・資料の移動及び民間倉庫における管理業務、改修に伴う事務所移転及びプロット48管理業務)	通年	実施 - 実施【達成】 ・7/22-26 事務所機能等移転 ・8月 作品・資料の外部倉庫移転完了	
	7		●改修後の開館30周年データ集ウェブ公開に向けた準備	データ整理	実施 - 実施【達成】 ・8月 プロジェクト始動:R4和文完成予定	
	8		●リニューアルオープン準備	通年	実施 B ・12月 R4からのプロジェクト始動決定:オープニング事業実施予定	
	9		●第三期指定管理事業計画書準備	調査に基づいた報告書提出 1回/年	1回/年 B 1回/年【達成】 ・5/18 ワールドカフェ ・6/21 正式提出	
	10	(2) 経営基盤の強化	●改修後の法人協賛制度の提案	調査に基づいた報告書提出 2回/年	1回/年 B 1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告	
	11	(3) 人材強化	●学芸員、エデュケーター育成:学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	実施	実施 - 実施【達成】 ・2/4 著作権研修 ・3/15 アーカイブ研修	
	4 その他の業務 政策目標(その他の業務)政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	1		●市の政策と事業の相互連携	随時実施	実施 - 実施【達成】 ・4/20,6/11,8/13,10/12 政策経営協議会 ・7/30,10/29 外部評価委員会 ・1/15,29 外部評価委員視察対応
		2		●外部意見の取入れ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	1回/年 B 1回/年【達成】 ・2/4 勉強会実施
		3		●年報発行	1回/年	1回/年 B 1回/年【達成】 ・6/15発行
5 人員計画	1		過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46人 ・館長1人 ・副館長2人 ・グループ長5人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員29人	46人 ・館長1人 ・副館長2人 ・グループ長5人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員29人	- 46人 ・館長1人 ・副館長2人 ・グループ長4人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員29人

評価		自己評価	行政評価
【成果:休館中の事業等】 ・移転時期を除き、オンラインショップを継続的に運営しています。 【成果:改修後に向けた検討】 ・来館者サービスの改修後の方針等については、R5年度の立案にむけて検討を開始しました。(文化庁文化観光拠点計画)(参照:提案書事業目標4,6) ・ショップ・カフェの改修後の方針等について、報告書を作成しました。他館調査や館内グループ横断の「ショップ・カフェリニューアルプロジェクト」で検討を行い、開かれた活動についての方針として、①入りやすい・誰にでも開かれた場所②居心地が良い場所③街や社会との接点④記念になる・美術館ならではの、という4つの方針を整理し、組織については、直営ではなく委託することを現段階で決定しました。(文化庁文化観光拠点計画)(参照:提案書事業目標5,6) 【課題】 ・来館者サービスについては、新型コロナウイルスへの対応等、鑑賞環境などの変化に柔軟に対処していくことが重要であると考えます。また、ショップ・カフェについては、リニューアルオープンを見据えて、ランドギャラリー等の他機能との一体性を考慮しながら、サービスを向上させていくことが課題となります。		【評価できる点】 ・リニューアルオープンに向けて、カフェ・ショップの方針の決定、法人協賛制度の提案、サーバー・PCのリプレイスなどソフト・ハードの両面で一定の準備が進んだことを評価します。 ・大規模改修に伴う仮事務所のPLOT48(プロット48)への移転、作品・資料等の移転を大きな問題なく行ったことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・「全体デザイン・プロジェクト」は、大規模改修のスケジュールや市で行う初度調弁にも大きく関係するため、市と緊密な連携を取ったうえで、市の想定スケジュールや予算の範囲内で事業を進めてください。	
【成果:休館中の事業等】 ・横浜美術館の施設管理を4-9月に実施し、当初の予定通り、9月30日に市に引き渡しました。 ・大規模改修については、工事における仕様確認、初度調弁、リニューアルオープンスケジュール、工事中の仮囲い活用などについて、随時市と協議しました。 ・改修に伴う作品・資料・事務所移動については、事務所機能と備品等を7月下旬に仮拠点に移転させ、また、作品・資料については、8月までに外部倉庫に移転させました。 【成果:改修後に向けた検討】 ・改修後を見据え、「全体デザイン・プロジェクト」を実施しています。この館内グループ横断プロジェクトでは、第3期指定期間の提案書の基本的な方針として定めた「みなとモデル」の主理念「多様性」を、家具什器、動線・サイン計画等により具体化するため、建築家やデザイナーと協働して、ワークショップなどを行い、検討を深めました。(参照:提案書事業目標6) ・また、美術館の経費に大きな比重を占める水道光熱費については、改修により水道光熱設備が全面的に更新されるため、改めてその経費を試算しました。同時に、サーバー・PCのリプレイスを実施するとともに、業務効率化のためのDX化を検討しました。 ・改修後に、過去40年間のデータ集をウェブサイトで公開するため、館内グループ横断の「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」で検討を行い、年報など基礎データの整理と市が保管している作品収集に関する資料調査などを行いました。 ・リニューアルオープン準備に向け、館内グループ横断のプロジェクトを来年度4月より開始し、オープニングに関連する事業や広報の企画・実施を推進します。 ・第3期指定管理事業計画書については、全職員ワールドカフェ等を実施し、6月に正式に提出しました。 ・改修後の法人協賛制度提案については、外部連携の一環として報告書を作成しました。目的を明確にした事業支援を目指し、Heart to Artはコレクション・教育普及・美術情報センター・ソーシャルグッド事業を支援対象とすることを現段階で決定しました。(参照:第三期提案書事業目標3および5) 【課題】 ・大規模改修後は、設備更新による経費節減効果が見込まれる一方、収蔵庫、エレベーター、アートギャラリー3(仮称)等の増設により新たに発生する光熱水費や保守点検の費用があり、効率的な施設管理と財源確保が課題です。		【評価できる点】 ・令和3年度は横浜美術館の次期指定管理者の選定があり、政策経営協議会は例年とは異なるスケジュールとなりました。その中で、時々の政策課題の解決に向けて協議を進めることができました。 【更なる取組を期待する点】 ・リニューアルオープンを見据え、持続可能でバランスの取れた組織編成と事業構築の検討を期待します。	
【成果:休館中の事業等】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・限られた人員体制の中で館の効率的な運営を行うためのマネジメントや人材育成が必要です。			

令和3年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命
(1)国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2)美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3)未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4)文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	
6 留意事項	-		-	-		
保険及び損害賠償の取扱い	1	業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	実施	- 実施【達成】	
法令の遵守と個人情報保護	2	コンプライアンス窓口を設置し対応	実施	実施	- 実施【達成】	
	3	個人情報保護研修	1回/年	1回/年	B 実施【達成】	
情報公開への積極的取組	4	財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	実施	- 実施【達成】	
市及び関係機関等との連絡調整	5	横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	実施	- 実施【達成】	
その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守 7)法令の制定及び改正への対応	6	法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施	- 実施【達成】	
7 特別事業	1	大規模改修	大規模改修:実施設計および引越しについて、市の計画に基づいた迅速な対応と協力	実施	実施	- 実施【達成】
8 収支計画		収入	指定管理料 利用料金収入 自主事業収入 雑入 合計	1,100,000,000 300,000 1,050,000 600,000 1,101,950,000	1,035,599,990 282,000 1,365,044 21,454,660 1,058,701,694	- - - - -
		費用	人件費 事務費 事業費 移転関係費 管理費 公租公課 事務経費 合計	340,583,000 10,658,000 71,018,000 400,000,000 141,621,000 38,298,000 99,772,000 1,101,950,000	318,092,147 7,217,898 79,066,208 335,599,990 105,746,160 44,096,645 83,777,645 973,596,693	- - - - - - - -

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も着実な実施の継続が必要です。 	
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と協議しながら、業務遂行しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も市との綿密な協議と計画的な実施の継続が必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休館中の横浜美術館の施設管理を適切に行い、市に引き継いだことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常の指定管理業務に復帰するまでの、大規模改修の現在に始まり、リニューアルオープン、外部倉庫からの作品等の横浜美術館への再移転に至るまでの期間に行う移転関係の業務について、市と綿密に連携しながらの検討をお願いします。
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入:大規模改修事業費の精算に伴い当該指定管理料収入が減となり、全体では対予算で減収となりました。その一方で、仮拠点で実施の「やどかり」プログラム収入、オンラインショップ売上、予算時点では未確定だった文化庁補助金を獲得等是对予算で増収となりました。 支出:前述の大規模改修に伴う移転経費等が大幅減となり、加えてコロナ禍による海外出張中止や勤務体制見直し等の要因で全体として対予算で減額となりました。但し事業費はリニューアル準備や予算時点では未確定だった文化庁事業を十分に行った結果、対予算増となりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な経営に向け、特に収入面では、文化庁の文化観光拠点計画においてこれまでの実績を報告しながら、一定の補助金等を確保していくことが必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入については、文化観光拠点計画にかかる文化庁からの補助金を獲得したほか、休館中ながらオンラインショップの売上が予算を大幅に上回るなどの成果がみられました。 支出については、事務所移転の前倒しにより管理費の縮減が図れたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修に伴う移転経費が予算より大幅に下回り、年度末に精算が発生することになりました。今後は、予算積算の精度を高め、適切に予算に反映されることを望みます。

目標項目		実施状況	
項目	目標の実践	目標水準(年度計画)	特記事項
総合			

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <p>大規模改修工事による全館休館はR3.3-R5年度中(予定)ですが、R3年度は通年休館となった初めての年となりました。</p> <p>上半期までにコレクションの外部倉庫への移転を行うとともに、夏には事務所機能と備品等を仮拠点に移転しました。下半期からは、仮拠点および市内各所にて様々な方に向けた教育普及事業を展開し、冬には若手アーティストの展示会を開始しました。一部、コロナ禍影響によってオンラインに切り替えながらおおむね全事業を計画通り実施することができ、とりわけ、アウトリーチについては多くの活動を行うことができ、当館と地域の多様な連携を示すことができました。</p> <p>なお、上記の事業の一部は、R2-R6年度の5年間にわたって横浜市等と協力して取組む、文化庁「横浜美術館における文化観光拠点計画」に位置付けられています。</p> <p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>また、大規模改修後に向けた検討については、6月に提出した第3期指定期間(R5~14年度)の提案書を踏まえ、おおむね8月より、必要に応じて館内グループ横断プロジェクト等の体制を組み、国内外の基礎資料調査や他館・関係者ヒアリング等を行い、新たな事業と運営に向けて検討を進めました。</p> <p>なお、上記の検討の一部は、R2-R6年度の5年間にわたって横浜市等と協力して取組む、文化庁「横浜美術館における文化観光拠点計画」に位置付けられています。</p> <p>*参考*</p> <ul style="list-style-type: none"> R3.3 大規模改修のため横浜美術館休館 R3.7下 横浜美術館から仮拠点であるプロット48に移転し業務実施 R5.9下 大規模改修を終えた横浜美術館へプロット48から移転 R5.冬 横浜美術館および PLOT48で横浜トリエンナーレ開催 <p>【課題】</p> <p>新型コロナウイルスへの対応など鑑賞や創作環境の変化に柔軟に対応し、リニューアルオープン後の健全な経営を見据えながら、市と連携して上記各項目の課題に取り組むことが重要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、国内外の文化施設で前年度以前から引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の必要に迫られる中、横浜美術館は令和3年3月から休館期間に入っていたこともあり、展覧会事業への影響は免れました。 その一方で、仮事務所への移転を挟みつつ行った教育普及事業には影響が生じたものの、新型コロナウイルスの動向もみながら実地開催からオンラインに切替えるなどして、おおむね全事業を計画通りに行い、地域との連携を深めました。 大規模改修に伴う仮事務所への移転や作品・資料等の移転を滞りなく進めました。地道な部分ですが、大きなトラブルがなく移転関連の業務を実施したことを評価します。 収支については、例年とは異なり、大規模改修中で見通しを立てにくい部分もあるかと思いますが、綿密な積算に基づく収支計画を策定するとともに、適正な執行に努めてください。 令和4年度は大規模改修中では唯一、移転事務を伴わない1年となり、仮事務所での活動の真価が問われる年となります。引き続き、仮事務所との運営に関わる環境の変化に柔軟に対応しながら、横浜美術館の存在感を発揮し、活動を広くアピールするような事業が行われることを期待します。 リニューアルオープンに向けて館内横断のプロジェクトチームをつくるなどして検討を幅広く進め、コレクション展や広報、ショップ・カフェ等では方針の決定にも結びつけています。 それらリニューアルオープン後の方針について、引き続き積極的な情報の共有を期待します。